

好評発売中!

“日本民法の父”梅 謙次郎のすべて

# 梅 謙次郎 著作全集CD版

定価¥150,000(税別)

編集：岡 孝 (学習院大学法学部教授)

監修：法政大学図書館  
法政大学ポアソナード記念現代法研究所



## 刊行にあたって

学習院大学 岡 孝

ここに、梅謙次郎博士の著作全集CD版を全国の図書館、研究者の方々に贈る。

博士の著書については復刻が相次いでなされているのに、さらに新たな企画をたてるのはなぜか。梅博士の著作の発表形態は、単行本、講義録以外に、論文、講演速記録、新聞への寄稿など、多岐にわたっている。このCD版は可能な限りそのすべてを集め、復刻しようとするものである。

解釈論を展開している代表的な『民法要義』、『民法原理』、『日本商法義解』(本野一郎との合著)などの著書、

論文、判例批評はもちろんのこと、その解釈論の背景にある博士の法思想に関する論文、講演速記録、談話なども、このCD版には収録されている。たとえば、家制度なり、労働運動、普通選挙権などについてどのように考えていたのかは、「家族制ノ将来ヲ論ス」法学志林33号(1902年)、「養子論」同7巻2号(1905年)、「二十世紀の法律」1900年1月5日～10日付読売新聞(談話)が参考になろう。また、「陪審論」法学志林11巻11号(1909年)など時事的なテーマを扱ったものも含まれている。さらに「法学研究の心得」法典質疑録21号、22号(1898年)、「余は如斯克己の方法を以て逆境と奮闘せり」実業之日本12巻21号(1909年)などを通して、明治期の法学者の成長過程をうかがうことも可能であろう。一方、本CD版には、今回新たに発見した講義録も含まれる。たとえば、判検事登用試験などの準備コースとして設けられた和仏法律学校高等科のための講義録(たとえば「明治36年度和仏法律学校講義録・高等科3号」)には、「隔地者間ニ於ケル意思表示」といった具体的な問題について博士と学生との問答もあり、興味深い。

梅博士没後90年余りたった今日でもなお、日本民法の解釈論・立法論を議論するさいに、博士の著書・論文などに立ち返る必要性はいささかもおとろえていない。多くの方々に、この『梅謙次郎著作全集CD版』をご利用いただきたいと願っている。

出版・発売元 **M丸善**

## 「梅法学」と日本の私法学の全面的分析が可能

立命館大学法学部教授 大河 純夫

かつて、民法1条の3と2条との関係を明らかにしようとして、立法過程を辿ったことがある。民法前3編が公布された後、元田肇等が「外国人ハ法律又ハ条約ニ依リ特ニ認許シタル場合ニ於テ私権ヲ享有ス」といった民法2条の修正案を第10回帝国議会および第12回帝国議会に2度提出し、また鳩山和夫等が民法2条削除案を第10回帝国議会に提出したので、外国人の私権享有問題をめぐる一大論争が起こった。

起草委員3名が組織的にこれに対応したのであるが、論陣の中心となったのは梅謙次郎であったから、岡・江戸両氏が作成された梅の著作目録をてがかりに、法学協会雑誌・法律経済・法典質疑録・法学志林・法学新報・日刊世界之日本・毎日新聞等で各種論稿を収集し、梅の民法要義の初版から最終版、講義録を検討しなければならなかった。狭義の私権の人類権的性格を強調していた梅が、人類権・国民権の二元的構成を明確に打ち出していく姿が印象に残っている。

各種雑誌等に掲載された膨大な論稿を網羅する今回の企画は、これまで以上に「梅法学」と日本の私法学をその展開に即して全面的に分析する可能性を切り開く最高の贈り物ということができる。



「梅謙次郎肖像」黒田清輝画(独立行政法人文化財研究所所蔵)

## 立ち帰るべき民法の基本思考

北海道大学大学院法学研究科教授 瀬川 信久

梅博士の著書は、100年以上経った今でも絶えず参照されている。債権譲渡の通知が同時到達した事件で、最高裁は、博士の考えに従って債務者をインフォメーション・センターと考え、到達時説を採った。担保・執行法の改正作業では、博士の説明を横ににらみながら、短期貸借、滌除、一括競売をどうするかを思案している。このようにいつも博士に立ち帰るのは、そこに民法の基本的思考様式があるからであろう。

明治初年から、「民法」「物権」「債権」「対抗」などの翻訳・造語の作業があった。続いて、ポアソナードの指導による旧民法典の起草作業があった。これらの知識の蓄積の上で、博士は日本民法の最後の形を決め、中身を詰めた。物権と債権の対置、物権法定主義の徹底、登記による優劣決定、民事責任と刑事責任の分離、それから導かれる金銭賠償主義、故意と過失の無差別化など、その内容は、当時のヨーロッパの最先端の動きを取り込んだ最新の民法範型であり、その特徴のいくつかは、満州帝国民法、中華民国民法に伝播し、東アジアの民法の共通特質になっていった。

梅謙次郎著作全集は、われわれが無意識に用いているコトバや思考パターンの意味を明らかにしてくれるであろう。それに、いまアジア諸国で進められている民事立法作業は、著作全集を手掛りにわが民法の歴史を振り返る意味を、もう一つ加えている。



「読売新聞明治33年1月5日記事」

## 出版仕様

- ◎CD-R 5枚に2万ページ以上の画像を収録
  - ◎梅謙次郎の著書・講義録・論文・講演速記録・新聞記事など活字になったものを網羅
  - ◎「タイトル」「発行年月」「雑誌名」「備考」などのキーワードから自由に目録検索  
→ダイレクトに収録書誌の本文画像表示
  - ◎梅の事跡をまとめた「梅年譜」、判例批評だけ特化して収集した「判例批評」なども収録
- ※著書で版を重ねたものは(例:『民法要義』)原則として最終版を画像として収録しています。

## 動作環境

- ◎現在保証されている動作環境: Microsoft Windows95,98,Me,NT4.0,2000Server,XP
- ◎ネットワークに対応(Windowsでのデータ共有型ネットワーク) ◎CD-ROMチェンジャー、CD-ROMドライブでの利用が可能
- ◎CPU cel 533以上(最低) cel 800以上(推奨) ◎メモリ128MB以上(最低) 256MB以上(推奨)

 MARUZEN

丸善株式会社【学術情報ソリューション事業部 企画開発センター】  
〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル 7F  
TEL 03-6367-6078 FAX 03-6367-6184 <http://www.maruzen.co.jp/>  
営業部・支店・営業所=横浜・八王子・大宮・筑波/札幌・盛岡・仙台・名古屋・岐阜・  
金沢・京都・大阪・神戸・岡山・松山・広島・福岡・長崎・熊本・沖縄/ニュージャージー